時の翼

結城　文

時の翼は白と黒
光と闇との縞模様
斜めにさす冬の陽射しに半身を照らされて
ゆりの木の街路樹に沿って歩いてゆく
私の生の照り翳り

天頂まで一気に駆け上がる飛行機雲
吹く風は冷たいけれど
空には滴るような春立つ光

けれど西には険しい表情の
灰色の雪雲もみだれ飛んで
記憶の川のように
あいまいに
飛行機雲はにじみはじめる

きさらぎの日を反しつつ歩く私は
光度計
錫の箔
回転する世界の静止点
一生（ひとよ）はそこから拡がってゆく円
日常の外に時折り遊び
想像力の時の翼に酔っては経す
円の縁（ふち）

不透明な先行きよ
蒼穹に吸われていった飛行機雲
経験は
力を与えてくれたろうか？
白と黒との時間の翼
だんだら模様の同心円